

「緑のカーテン」指導マニュアル

保育園・幼稚園、一般用

この指導マニュアルは、「NPO エコバンクあいち」会員により、保育園・幼稚園をはじめ一般の誰もが手軽に緑のカーテンづくりを楽しめるようにすることを目的に作成したものです。

このマニュアルは、今後も写真や解説を増やしわかりやすいマニュアルとするとともに、実践から問題点をフィードバックし、内容を更新することで完成度を高めていきたいと考えています。

そのため、このマニュアルをご利用いただく関係者の皆様は、この点にご留意いただき、忌憚のない助言やアイデアをいただくようご協力をお願いします。



平成21年 3月初版

平成21年 5月改訂

平成21年 9月改訂

平成22年 4月改訂

NPO エコバンクあいち

〒491-0042 愛知県一宮市松降1丁目3番9号

電話 0586-82-6778 FAX 0586-82-6878

info@eco-bank.jp www.eco-bank.jp



このマニュアルは、保育園・幼稚園、企業の非営利活動、非営利団体の非営利活動、営利を目的としない個人などが使用できるものとし、営利目的の無断使用はお断りします。

このマニュアルをご利用いただく際は、ページ下部に記載しております、著作制作NPOエコバンクあいちを掲載してご利用願います。

1. 基本的な考え方

「緑のカーテン」事業の広がり

- 1) この事業は、保育園・幼稚園、さらにそこを通して地域へ発信し、各地域において地域社会に広がりをつくっていくことを目標とする。
- 2) 「緑のカーテン」指導マニュアルにより、保育園・幼稚園や地域における説明会において広く啓発されていくことを願うものである。
- 3) 事業実施における問題点を、随時フィードバックし、早期に解決できる体制を確立する必要があると考えています。
- 4) マニュアルは、毎年度各保育園・幼稚園の協力を得て改訂し、2～3年後の完成を目指し、この事業をよりいっそう向上させることを目標とする。
- 5) できる限り保育園・幼稚園と地域の連携を持ち、緑のカーテンを育てる協力体制を確立することを期待する。各地域が、各園とともに実践し、そのノウハウを次年度希望する地域や施設へ広めていくことが、今後の重要なポイントとなる。

2. 緑のカーテンの年間計画及び留意点等

(1) 保育園や幼稚園での取り組みの考え方

- 1) 保育所保育指針の「第3章 - 1 - (二) - ウ 環境」の項に掲げられているように、子どもたちが周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持ってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養うとともに、昨今の地球温暖化防止のためのエコ活動としても取り組んでいく指導方法のひとつとして提案するものである。



- 2) 各保育園・幼稚園において特別な購入物品が発生しないように、通常園にあるものを利用することで行える内容とした。ただし、緑のカーテンの成長に必要な物品は、この限りではない。

(2) ねらい

- 1) 身近な環境に親しみ、自然とふれあう中でさまざまな事象に興味や関心を持つ。
- 2) 身近な環境に自らかかわり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。
- 3) 身近な事物を見たり、考えたり、扱ったりする中で物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。

(3) 育て方 (アサガオを例に)

実際に父兄や先生と一緒に種まきをしたり水やりをし、花を育てることを体験する。

アサガオなどが大きくなっていく姿を見たり、花が咲いては枯れる様子を見たりし、花を育てる中で不思議さ、面白さ、心地よさを十分に味わう。また、子どもたちや先生が共感しながら興味や関心を広げ、自らかかわりながら涼しさをつくる体験をする。

| | 地 植 え | プ ラ ン タ ー | 留意事項 |
|--|---|---|---|
| <p>4 月</p> <p>○アサガオの種まきをする (4月中旬～5月初旬)</p>  | <p>ビニルポットに種を2粒ずつまく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本葉が出てポットの土に根付いたら良い苗1本を花壇に定植する。 ・植え付けの間隔は、30cm位にする。  | <p>プランターに種をまく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プランターは、容量が多いものの方がより緑のカーテンが作りやすい。 ・鉢底から水が流れ出る程度までかけることが大切。  | <ul style="list-style-type: none"> ・アサガオの種は、器に入れた水に一晩つけて、底に沈んだ種を使用すると芽が出やすくなる。 ・覆土は、7mmくらいにする。 ・水まきのホースまたはじょうろの先にシャワー口をつける。  |
| <p>5月～6月</p> <p>○支柱を立てネットを設置し、アサガオのツルがからんで伸びていくようにする。</p> | <p>○追肥をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2～3週間に1回程度行う。 <p>※必要に応じて草取りをする。</p> | <p>○追肥をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2～3週間に1回程度行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・追肥は、粒状の化成肥料でよい。 ・ポット苗を使用する場合は、5月初旬までに植え付ける。 |
| <p>7月～8月</p> <p>○草取りをする。</p> <p>○花を摘んで、色水遊びをしたり、アサガオの絵を描いたり粘土で作ったりする。</p> | <p>○追肥をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2～3週間に一回程度行う。 | <p>○追肥をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2～3週間に一回程度行う。 <p>※必要に応じて、水やりは夕方も1回行う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・アサガオは、短日性の植物なので、日が短くなってくる8月後半から9月にかけてもたくさん花芽が付きま |
| <p>9月</p> <p>○タネ取りを楽しむ</p> <p>○どれだけ伸びたか、ツルの長さ比べを楽しむ。</p> | | <p>○必要に応じて、草取りをする。</p> | |
| <p>○水やりは、毎朝9時までに1回行う。暑い日の昼間に水やりをすると、葉や根を傷めてしまうことがある。</p> | | | |

※必要な材料や道具等

- 腐葉土(細かいもの)、赤玉土等、石灰またはくん炭、肥料(有機肥料、化成肥料など)
- くわ、スコップ
- ビニルポット(地植えで定植するまで必要な場合)
- ネット、支柱、ロープ(支柱代わりに使うとき)、プランター(地植えは不要)
- アサガオの種など

緑のカーテンに使える植物(フウセンカズラ、クレマチス、ニガウリ等)の種または苗でもよい



※ 種からの栽培の仕方

・・・種はまく前日に一晩水につけておくと芽が出やすい、

①ポットでつくる

ポットに土を入れる

(水をかけると沈むので一杯土を入れる)



指で押して少し穴を開け

種をまき水かけをする



7mm ほど覆土して

土に水をかける



②バット、トレイでつくる

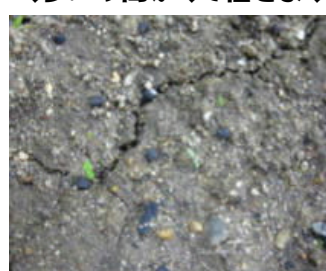
ざる状バットに土を入れる

(8割程度)



発芽して苗がくっつかない

くらいの間かくで種をまく



**指で押して種の大きさの
2~3 倍の深さ埋める**



※市販の苗から育てる場合

- ・種苗店やホームセンターで売っているポット苗を利用する場合には、ポットから出して植える前に、まわりの硬くなった土を少しほぐしてから植えると、根付きがよくなります。
- ・アサガオは、双葉が大きく丸みのあるものは、大輪になります。小輪咲きは双葉が細くとがったものです。



(4) 緑のカーテンを成功させるための大切なポイント

- A. 土づくり・・・花の成長に土壌の豊かさや質は、大きな問題となる。**
よい土とは適度な通気性、保水性、保肥性のある土のことをいう。

① 土を混ぜる

地植えの場合は、土を深さ30cmは耕して石灰を混ぜ、そこに腐葉土を良く混ぜあわせる。土と腐葉土の割合は7：3が望ましい。石灰は、酸性(※)になりやすい土中を中和し、植物が育ちやすくするためにも必要です。

プランターの場合は、あらかじめブルーシートなどの上で赤玉土(小粒)、腐葉土、くん炭を良く混ぜ、適量の肥料を加えて混ぜ込んだ上でプランターに移すと均等に養分などが行き渡る。また、鉢底の土には、赤玉土(大粒)が再利用に適しています。



(※)日本の土は、酸性土壌に傾きやすい。雑草のオオバコ、カヤツリグサ、カタバミ、スギナ、ハハコグサ、チドメグサ等が生えていたら、酸性になっている。

石灰には、苦土石灰や有機石灰などがある。使用量は、購入商品の使用説明通りに適量を使用する。苦土石灰の場合は、最低、種まきの3日以上前には土に混ぜ込んでおくことが必要。

腐葉土は、なるべく目の細かい完熟のものを使用することが望ましい。もし、購入したものが、粗いものであったら、一旦ビニールシートなどの上に広げて干しておき、乾いてから手で揉んで細かくして使用するとよい。

② 元肥を混ぜる

調理室などで利用した野菜くずを事前に堆肥化し、別途準備する。これらをまず種まきする前に十分に土に混ぜ込み、元肥としての土づくりをしておくことよい。また、家庭内のごみ減量に気づく機会を合わせて提供することが望ましい。市販の有機肥料や化成肥料を使用する場合には、製品の使用量や使用方法を守って使うこと。

③ 地植えとプランター

- ・より大きな緑のカーテンを作るためには、土中の養分を十分に使うことのできる 地植えが望ましい。
- ・プランターの場合は、その範囲の土の養分でしか植物が育たないので、地植えに比べて大きくなりにくい。大きく育てるためには、地植えの場合よりも追肥や水やりに気を使わなければならない。



B. 水やり・・・水に混ざった養分を根が吸い上げて植物は成長する。

- ・水やりは、成長のためにはだいたい午前9時(真夏は8時)までに完了することが望ましい。夕刻に水をまくと徒長しやすく、弱くなることがあるので注意が必要。
- ・プランターの水やりは鉢底から水が流れ出たら十分な水が土中に行き渡った合図なので、それ以上水やりはしない。水やりのしすぎは養分を水と共に流したり、根腐れの元となるので気をつける。

C. 施肥・・・元肥をしっかりと施すのはもちろんのこと、つるをのばしていくために追肥を2～3週間に1回は行う。

D. 良い苗の選び方

- ・葉と葉の間の茎が短く、徒長していないもの。
 - ・病害虫のないもの。(葉の裏側も良く確認する。)
 - ・ポット苗をゆすって、苗がグラグラと揺れないもの。(根がしっかり張っているのでよい苗。)
 - ・葉の色が、なるべく濃いもの。
- (※)定植のタイミングは、本葉が2～3枚の 때가、望ましい。

E. その他の注意点

- ・土中の養分が種を実らせることに使われないよう、7～8月までは早めに花がら摘みをして、つるを伸ばすことに使わせるように仕向けることが、プランターで大きな緑のカーテンを作るコツである。
- ・家庭で使用される20cm×60cm程度のプランターは、夏季の温度上昇に耐えることができない場合があるので、大型で、地盤との間に空間があるものが望ましい。また、コンクリートに直接置かないことが重要である。やむを得ない場合には、プランターの下にすのこなどを置き、夏季の熱気により根が痛むことを防ぐ必要がある。

- ・ネットはなるべく角目の方がつるがまっすぐに伸びるので望ましい。菱目の場合には、つるが一方に偏りやすい。

3. 緑のカーテンでの“まなび”

(1) 温度差を感じてみよう・・・緑のカーテンの外と中ではどう違うかな？

- ・「地球が温暖化している」と言われています。電気やガス、ガソリンなど、私たちの生活には今や無くしてはならないものですが、これらを使う活動のほとんどが地球の温暖化につながる原因になっています。
- ・前年度の成果では、内と外で2度から3度は違うという報告があります。まずは、一人ひとりがすぐにでもできる一番身近なところ、「冷房を控えて電気の無駄をなくす」ところからはじめてみましょう。



(2) 実りに感謝しよう

- ・ニガウリやキューリは、太陽と土に感謝してみんなでおいしく食べてみよう。
- ・ひょうたんやフウセンカズラなどは、いろいろ工夫して組み合わせ、部屋の飾りにしたり、工作に利用してみよう。
- ・アサガオやクレマチスは、色水遊びや押し花などにして飾り付けてみよう。



(3) まわりに広げよう

- ・友達どうして緑のカーテンの出来栄を競い合ってみよう。
- ・保育園などで採れた実や種は、次年度のために保存してだけでなく、近所の人に付けてあげて、来年地域ぐるみでの取り組みにもつなげていこう。

(6) 次年度に向けて

土の再利用のために

- ・1年間使ってきた土は、このままでは翌年度に使うことはできません。まず、土を5～7mm程度のふるいにかけて、根や雑草を取り除いたうえで、次のどちらかの方法で消毒した上で再生して利用してみましょう。

① 日光消毒

黒いビニール袋に土を入れ、密閉した上で上を入れ替えたりしながら約1ヶ月くらい熱で消毒する。

② 冷気消毒

ビニールシートの上に土を広げて下に当てて消毒する。このとき、雨にはなるべく当てないようにする。



- ・処理した土の25%を目安として腐葉土を加えてよく混ぜる。
- ・苦土石灰を、その土の表面がうっすらと白くなる程度(袋の仕様説明を参照のこと)にまいて、よく混ぜた上でビニール袋に入れて来年使用するまで休ませましょう。